区報ふじみのこども新聞 オリンピック・パラリンピック
平成30年3月31日

オリンピックに出られるのは人と馬だけ

まぢかで馬の走りを見ました

1月7日に、ふちゅうにある東京けいば場のじょうばセンターに行きました。正門を入り、ストリートをぬけると、前ぽうに大きいビルが見えてきます。左に進むと、右がわにメインのけいば場が見えてきます。もっと前に進むときゅうしゃなどがあって、家ぞくづれの方には公園、ゆうぐなどがあって小さい子がいても安心できます。さらに、馬とのふれあい体験や、馬車に乗る体験もできるので良いと思います。（小4／S・S記者）

馬術（ばじゅつ）きょうぎ

オリンピックに出られるのは人と馬だけです。

オリンピックの馬術のきょうぎでは、障害（しょうがい）馬術、馬場（ばば）馬術、総合馬術とパラ馬術があります。障害馬術とは決められた障害を順番におとさずとぶ、馬場馬術はフィギュアスケートのように歩きなどのきれいさをきそう、総合馬術は池の中などをとおり長いコースを走ります。リオオリンピックでも64組出場したが16組はコースをクリアできなかったそうです。パラ馬術は障害がある人が馬術を行うことです。このように馬術のきょうぎにも色々あることが分かりました。（小5／T・O記者）

なみあし（小4／S・K記者撮影）

東京競馬場の乗馬センター

東京けい馬場は、1年間に土日で40回くらい、けい馬を開さいします。コースは、しばのコース、砂のコース、しょう害コースの3つのコースがあります。（小4／R・M記者）

乗馬センターで一ばんに公開しているショーを見ました。しょくいんの人が馬に乗り、お客さんの近くを小走りしたりしました。とちゅうまではじゅんちょうに走っていて足も高く上って言うこともよく聞いて、終わったらすなあびもして、なついている人にしかできないことだ、ということです。けれどあきたようにやめてしまいました。自由になりたいのは自分たちと同じだということがわかります。（小4／K・K記者）

馬術競技や馬について教えてくださったJRAの吉田年伸（よしだとしのぶ）さん

まさに「馬感」

今回は乗馬体験でサラブレッドに乗りました。サラブレッドは軽種（けいしゅ）の一つで、軽い方ですが500kg程あるそうです。実際に乗ってみて、とても力があり、まさに「馬感」を感じました。ふだんは心拍は30～40回／分ですが、レース中は200回／分ぐらいです。ぼくが乗ったときは1秒に1回ぐらい鳴るのかなと思いました。

体温は人間より1.5～2℃ほど高いため、カイロのようにあたたかかったですが、毛がもっと生えている時よりはあたたかく感じないだろうと思いました。（小5／S・I記者）

小学校で視覚障害者柔道体験授業

明化（めいか）小学校

1月26日、「柔道」の授業に、視覚障がい者柔道の廣瀬誠（ひろせまこと）選手が来てくれました。廣瀬選手は60キロ級の選手で、前回のリオパラリンピックでは銀メダルをとりました。リオパラリンピックの後、引退して、今は愛知県で盲学校の先生をしています。

廣瀬選手は高校2年生の時に弱視（じゃくし）になりました。一番困ったことは、友だちの顔が見えないことで、今話していることを友だちがどのような顔で聞いているのかが分からなくて不安だったそうです。

廣瀬誠（ひろせまこと）選手

リオでは、人が優しくて「できることはあるか?」と聞いてくれたことがうれしかったそうです。みんなにも声かけをしてもらいたいと言っていました。視覚障がい者になってよかったことは、ご飯が食べられるとか、手が動くとか、当たり前のことを「ありがとう」と感じることで、みんなへのメッセージが3つありました。まず、何に対しても感謝の気持ちを持つこと、次に、やらないで後悔するのではなくチャレンジすること、最後に、好きなことを見つけたら努力して、願いがかなわなくても、やっていてよかったと思うことが必ずあるということです。私もこれからいろいろなことにチャレンジしていきたいです。（小4／M・O記者）

銀メダリストから一本！

鴛籠町（かごまち）小、昭和小、駒本（こまもと）小合同授業

2月2日、第九中学校で視覚障害者柔道日本代表、半谷静香（はんがいしずか）選手の講演（こうえん）がありました。半谷選手は福島県に生まれ、大学の時に視覚障害者柔道を始めました。親の期待を裏切ることができない思いが強かったため、子供のころは周りに目が見えないことをかくしていました。しかし目は日に日に悪くなっていきました。視覚障害を認めたくなかった半谷選手でしたが、今は視覚障害であるからこその舞台に立っている、と思いを変え、今も練習をがんばっています。

半谷静香（はんがいしずか）選手

2017年にあったトルコの大会で初の金メダルを取りました。夢はTOKYO2020でパラリンピック最初の金メダルを取ることと力強く語ってくださいました。視覚障害者柔道の決勝戦はパラリンピック最初の決勝戦だそうです。

講道館（こうどうかん）でも試合があるので、時間があるのならば応援にきてほしいと言っていました。パラリンピックはオリンピックに比べ、人気がないようですが、パラリンピックでしか感じることのできない独特の楽しさがあります。視覚障害者柔道は組み手争いがない分、技と技の掛け合いがおもしろいと柔道家が語っています。ぼくも視覚障害者柔道をはじめ、様々なパラリンピック競技に興味をもちたいと思います。（小6／K・A記者）